

メジャー&キャリア

Major & Career

メジャー&キャリア

▶ 一覧に戻る

🖨 本文印刷

▶ 鈴木さん 1回目



■プロフィール

2001年に理学科を物理学専攻で卒業。ICUの大学院にて修士課程終了後、2006年までドイツ ケムニツ工科大学の博士課程に在籍。2006年にドイツ住友商事会社に入社。2009年に日本の住友商事株式会社に入社し、自動車関連の部署に配属、現在に至る。



聞き手: 榎田さん(3年生)、高石さん(4年生)

< 第一回: 物理の世界以外に身を投じるなんてありえなかった >

高石 鈴木さんは、ICUではNS(自然科学科)に入学して、物理を専攻なさったとお聞きしました。いつ頃から理系を勉強しようと考えていたんですか？

鈴木 そうですね。僕はもう小学校の頃から理系を目指していました。これからの世の中は、コンピューターと英語が出来ないとだめだとなんとも思っていました。



榎田　すごい小学生ですね！（笑）

鈴木　生まれ育ったのが埼玉の田舎の方だったんです。

田んぼがひろがり、猟銃を持った人がいるような……。その影響からか「もっと外の世界を見なければ」と思うようになりましたね。

さらに言えば、シャーロックホームズのテレビ番組が大好きだったので、海外に行きたい気持ちはありました。

あと、小学生の頃からコンピューターが大好きで、自分でプログラムをなんとなく勉強するようになりました。

昆虫は大嫌いで触れないけど(笑)、物理も好きだったので、文系の分野が苦手だったこともあり、何の疑いもなく理系の道を進んできたわけです。

榎田　小学生の頃から理系って、すごいですね……。

高石　理系の大学が数ある中で、なぜICUに進学しようと思ったのですか？

鈴木　中学の頃は、イギリスにある日本人学校に通っていたんです。

高校受験をする時に、もう大学受験はしたくないな、と思って、とある大学の付属高校に入学しました。「大学もエスカレーターで入れるし、これで受験生活は終わったー！」と思っていたんですが、高校一年生の夏、先生に進路のことを相談して、その時初めて知ったんです。

その大学には、理系の学部がない！

一同　えーっ！（爆笑）

鈴木　っていうところから始まったんですよ。あー、そうかー！と。理系がない総合大学もあるよな、って。

榎田　意外な落とし穴ですね……。

鈴木　理系分野に特化した大学を選ぼうかとも思ったけど、一方で英語のレベルも求めて行きたい。

理系で英語もできるという視点で搜したら、ICUという選択肢が残ったんです。その目論見は外れていなかったと思います。

実際に理系の授業は三分の一くらいが英語でした。同じ教科なのに、タームごとに英語の先生だったり日本語の先生だったりするんですよ。専門用語も、英語で学んだものと、日本語で学んだものが混在していたので、その後に海外に行くと、ちょっと抜け落ちていることもあるから改めて勉強したりしましたね。

そのときは自然な事でしたが、振り返ってみれば面白い経験をさせてもらいましたね。というか、それが強みにもなりました。海外の大学院だと、専門用語も含めて英語でプレゼンやらなきゃいけないですからね。



高石 そうなんです。

鈴木 それにICUのELP。あれはよく練られたプログラムだったかと、今でも思います。

商社にも「英語なんてお手の物」という人がたくさんいて、英語が話せるだけでは何の取り柄にもなりません。

実際のビジネスで必要なのは単に英語がしゃべれる事ではなくて、ELPで学んだロジカルシンキングとかクリティカルシンキングとか、なにか目標を達成するために、いかにロジカルに英語を組み立てて進めていけるか、なんです。

今振り返れば、ELPで学んだ英語のスキルだけじゃなくて、そういった論理の組み立て方がすごく役に立っていますね。

榎田 商社ですから留学経験者とかも多いと思うんですが、海外に住んだことがあって英語できますっていう人と、ELPを学んだ人とは違いますか？

鈴木 商社の仕事というのは、一概には言えませんが、端的には日本を世界に売り込む営業マンのような仕事です。

これは商社に限らず海外と取引するビジネスパーソンに当てはまると思いますが、知らない分野を素早くキャッチアップして、自分なりに咀嚼して、英語で交渉する事が求められる場面が多くあります。

ICUで学んだことっていうのは、そのベースにとっても大きく影響していると思います。ICUで四年間教育受けていると、全く知らない分野のことも英語で臆せず突っ込んでいける。そこにハードルを感じない事は、すごいアドバンテージだと思うんですよね。

榎田 なるほど、そうかもしれませんね。

高石 でも、鈴木さんは大学卒業後、就職の道を選ばずに、ドイツの大学院に進学なさったんですよね。

鈴木 はい、大学院当時は、物理の世界以外に身を投じるなんてありえなかったですね。ましてや商社なんて、考えもしなかったんです。

海外の大学院に進学したのは、当時取り組んでいた研究分野を取り扱っている先生が、ドイツとアメリカにしかいなかったからです。

進学した後は、大学の先生になるのかな、と考えていましたね。

榎田 それなのに、どうして企業に勤めようと考えられたんですか？



鈴木 ドイツでの研究途中に、ちょっと立ち止まって考えた事があったんです。

博士課程を終えるまで、まだ2~3年はかかりそうだ。けれど、自分が世の中の役に立
てる事が、ほんとにこの研究の先にあるのかな？って。

その時に、何となく違和感を感じたんですよね……。

[<次へ>](#)

<感想は majorandcareer★gmail.com まで>
★を@に置き替えて下さい

もくじ

[第一回 物理の世界以外に身を投じるなんてありえなかった](#)

[第二回 45人の外国人を前にして](#)

[第三回 哲学メジャーは就職に不利？](#)

[第四回 一生懸命生きて来たかは、30分話せばなんとなくわかる](#)

ツイート

いいね! 0